

# 農林水産大臣賞受賞

～シバザクラを通したむらづくり～

い ち り や ま ち く  
受賞者 一里山地区ふるさとづくり推進協議会  
す い し ん き ょ う ぎ かい  
(宮崎県宮崎市)  
み や ざ き し

## ■ 地域の沿革と概要

宮崎県の南東部に位置する宮崎市は、平成18年1月に旧田野町、旧佐土原町、旧高岡町、平成22年3月に旧清武町と合併し誕生した市で、多くの観光資源を有する観光都市である。一里山地区は、旧高岡町浦之名にある久木野集落と小田元集落の2集落からなり、宮崎市の西端に位置し、市の中心部から約30kmのところにある。

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

一里山地区のある高岡町浦之名の人口は、1,336人(令和2年1月1日現在(住基人口))で、65歳以上の人口割合が45.1%となっており、年々高齢化や人口減少が進んでいる。

農業形態としては、標高190mの高台に位置していることから、畑地帯が広がっており、茶を中心に、多様な野菜や樹木苗木等の栽培のほか、繁殖牛や肥育牛、養鶏といった畜産業が行われている。

特に茶は、西の霧島連峰から吹き下ろす冷たい山風と、東の日向灘から吹く暖かい海風による寒暖差でできる美味しい「一里山茶」として、地元の名産品となっている。

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落の集合体
地区の性格	地縁的集団
農家率 (内訳)	35.6%
	総世帯数 101戸
	総農家数 36戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 22戸
	1種兼業農家 7戸
	2種兼業農家 1戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 134,540ha
	耕地面積 176ha
	田 2ha
	畑 97ha
	耕地率 0.1%
	農家一戸当たり耕地面積 4.9ha

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

高齢化や若者の流出に伴う人口減少に加え、旧高岡町が平成 18 年に宮崎市と合併したことにより、地域住民の中に、一里山地区が取り残されてしまうのではないかという危機感が芽生えたことが、協議会設立のきっかけだった。

自分たちの地域を何とか盛り上げていきたいという気持ちから、久木野自治会、小田元自治会の役員で話し合いを重ねた末、元々、地区の女性数人が自宅の玄関先に植栽していたシバザクラに着目。2 集落まとめてシバザクラの植栽を通して地区を PR していくという方針を打ち立て、平成 19 年に「一里山地区ふるさとづくり推進協議会」を設立した。



写真1 一面に植栽されたシバザクラ

以後、一里山地区を広く知ってもらうために、シバザクラの植栽を始め、「九州一のシバザクラの里」を目指し、美しい農村景観を活かしたむらづくりを行っている。

### (2) むらづくりの推進体制

#### ア 組織体制

協議会は平成 19 年に設立。久木野集落と小田元集落の全 101 世帯がメンバーであることに加え、そのうち約 2 割の世帯に属する 21 名が役員を務めており、地区全体で主体的にむらづくりに取り組む体制が整っている。

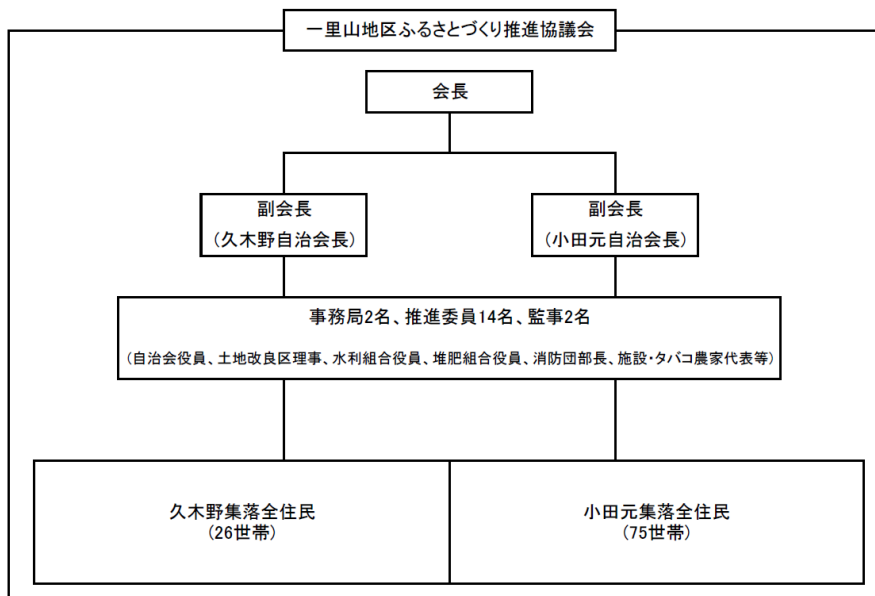
役員構成は、男性 20 名、女性 1 名。年齢層は 30 代から 90 代と幅広く、会長等の中心役員は主に 50 代から 60 代が担っている。久木野集落と小田元集落の両自治会の役員、消防団長、地元土地改良区の理事、民生児童委員等から組織され、それぞれの職業は、農家をはじめ、地元建設業者や会社員等、多岐にわたり、役員を通じて多様な団体と連携・協調している。

また、毎月、協議会の役員会を開催し、地区の課題や活動内容を協議しており、合意形成・意思決定の仕組みが確立されている。

#### イ 組織の運営費

活動の財源としては、国の「多面的機能支払交付金」を主に活用。また、農地以外の部分においても、宮崎市の「美しい農村景観支援事業」により、地区全体の農村景観保全活動に対する補助金を受けており、これらの支援を有効に活用しながら、農村景観保全活動を中心としたむらづくりを継続している。

第2図 むらづくり推進体制図



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

協議会の取組みの核となっているのは「シバザクラの植栽」を通じた農村景観形成及び環境保全活動だが、そこから派生して農産物のPR・販売等による農林業の振興や、イベントの開催等による大幅な交流人口の増加など、多様な面で地域の活性化に大きく寄与している。

このように大きな効果が生まれている要因の一つが、盤石な組織推進体制にある。地区の全世帯がメンバーであることに加え、全世帯の約2割が役員を務めているなど、高い自主性があり、かつ、毎月の役員会で課題・活動内容を協議するなど合意形成の仕組みが確立されている。

また、2つの集落が協議会の設立を機に協力を始め、活動を通して地域のコミュニティが強化されたことにより、若者を中心として愛郷心が育成され、担い手の確保や転出者の防止につながっている。

### 2. 農業生産面における特徴

#### (1) シバザクラの植栽を通じた地元農林業のPR

協議会では、シバザクラの植栽を通じたむらづくりを行っており、毎年3月下旬から4月上旬頃にかけて開催する「シバザクラまつり」では、物産コーナーを設置し、地元の名産品である「一里山茶」のほか、シバザクラの苗、ツツジやスギ、ヒノキ等の苗木等、地元の農産物を販売している。

この物産コーナーは毎年大盛況となっており、売れ行きも良いため、地区の高齢



写真2 シバザクラまつりでの農産物販売

者の中には、この物産コーナーで農産物を出品するために、小規模ながらも農業を続けている方も存在する。

また、地区のPRのために協議会で作成したパンフレットにおいても、「一里山茶」等を紹介し、地元農産物の知名度アップを図っている。

## (2) 農地の維持・保全活動

協議会の活動として、農地の畦畔や荒廃農地の草刈り、水路の泥上げ等の保全活動を行っている。活動の際には、住民全員が総出で協力して取り組んでいる。

また、一里山地区は茶の栽培が盛んであり、一部の圃場では有機栽培に取り組んでいる。農薬を使用しない有機栽培では、害虫対策が肝心となるが、協議会により草刈り等の保全活動を実施することで、荒廃農地の抑止や、地区内の雑草の繁茂が抑えられ、害虫の発生抑止にもつながる等、農業をするうえでの環境改善も図られている。

## (3) 農家民宿「一里山園」

一里山地区には、宮崎市内において第1号で唯一の農家民宿である「一里山園」がある。「一里山園」では、地元農産物をふんだんに使った料理で宿泊客をもてなし、農業体験のほか、そば打ちやピザ作り等も体験でき、県内外はもとより、国外からの観光客もからも人気である。

「一里山園」と協議会が連携してイベントを実施することもあり、協議会とともに、農業農村である一里山地区の活性化を担っている。

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### (1) シバザクラの植栽活動及びシバザクラまつりの開催

協議会では、シバザクラの植栽活動を行っており、毎年3月下旬から4月上旬にかけて、ピンクや白のシバザクラが、茶畑の広がる一里山地区を彩る。

シバザクラの植栽活動は、元々、平成10年頃から、地区の女性有志数人が農道の景色を通行者に楽しんでもらおうと、自宅周辺に植栽を始めたことがきっかけである。



写真3 シバザクラロードの風景

その後、平成19年に協議会を結成し、本格的な植栽を始め、50人の植栽ボランティアを募り、沿道や農地の法面等、地区内全体に植栽の範囲を広げていき、現在は、毎年約15万本のシバザクラを植栽している。

また、シバザクラを見ながら周遊するルートをシバザクラロードと称し、案内看板を作成することで、地域への交流人口増加を図っている。

平成20年からは、毎年、満開を迎える3月下旬から4月上旬にかけて1

週間程度、「シバザクラまつり」を開催し、名産品である茶等の地元農産物を販売する物産コーナーを設置。ウォークラリー等のイベントを併せて実施した年もあり、年々盛況となっている。現在は、県外客を含め、期間中に約1万人の見物客が訪れるまでの人気イベントとなっている。



写真4 協議会作成案内看板

## (2) 農村景観保全活動を通じた地域のコミュニティ強化

農道両側に約2km続くシバザクラの管理には、植栽活動だけでなく、除草等の維持管理も必要である。

また、見物客が気持ちよく過ごせるよう、地区全体の環境美化活動にも取り組む必要があり、これらには多くの人手が欠かせない。

そのため、これまで共に活動することのなかった久木野集落と小田元集落の両自治会が、協議会の設立を機に協力して管理を始めるようになった。

現在は、毎月、協議会の役員会を開催し、地区の課題や活動内容を協議している。また、定期的に農道の草刈りや水路の泥上げ作業、地区の清掃作業を実施し、年間を通して、住民一丸となり景観保全活動を行っている。



写真5 住民一丸となった景観保全活動

さらに、年々シバザクラの見物客が増えている中で、住民総出でまつりの準備や交通誘導等を行うことで、住民の絆も深まっていき、当初はあくまで環境づくりが目的の活動であったが、今では地域のコミュニティ強化に寄与している。このことが、地域の若者の愛郷心育成につながっており、若手農家からは「みんなで団結して活動ができるこの地区にとどまって農業がしたい」という声が聞かれるなど、担い手の確保にも確実に貢献している。

## (3) 先進地としての研修の受け入れ、各種表彰

これらの活動が評価され、協議会は「平成24年度 第18回宮崎市花のまちづくりコンクール 最優秀賞」、「平成27年度 第25回全国花のまちづくりコンクール 優秀賞」、「平成28年度 宮崎県地域づくり顕彰 奨励賞」を受賞している。

また、美しい農村景観を利用したむらづ



写真6 協議会の活動をまとめた看板

くりの先進地として、県内外のグリーン・ツーリズムやまちづくり関係団体の視察研修の受け入れも行っている。